

近藤栄紀議員



● 魅力ある移住支援策について
● 医療費抑制の方策について

そのほかの質問

- ・移住、定住促進対策の状況について
- ・国民健康保険の運営変更による影響について
- ・クリーンアップ九頭竜川事業について

一般質問

問 過疎指定797市町村のうち11・7%の市町村では、2010年から2015年までの5年間で、社会増を達成している。

問 福井県は、市町間の国民健康保険の保険税負担を平準化することが望ましいと考え、市町間の医療費水準の差が比較的小さいことから、将来統一していくとしている。保険税の統一は、保険料を平準化する効果はあるが、支出抑制には医療費の抑制が必要になる。勝山市としてはどのように対応していくのか。医療費適正化の効果を上げる取り組みをどうするのか。被保険者の病気予防の取り組みをどう考えるかを問う。

豊かな自然、静かな生活環境を求める動きや、自治体側の移住促進策を背景に、都市部からの移住が増えている。結婚や出産の機会が多い女性の移住が増えており子育て環境を重視し、家族ぐるみで移り住んでいる。全国の市町村が移住者支援で特に力を入れているのが、住まいに関わる支援制度である。勝山市において、他市町村以上の魅力ある施策が必要と考えるが、市の見解を問う。

答 現在の補助制度が、Iターン者に手厚くなっているものの、Uターン者や定住を考える若者にはメリットが少ないとの指摘も受けている。また、多くの企業から、人材の確保が大変困難な状況と伺っている。

来年度に向けてUターン者や若者の定住を後押しできる支援策を研究している。来年度以降、勝山市ならではの新たな施策により、更に移住者を呼び込みたい。

問 勝山市の疾病・疾患の分析結果から、いわゆる「生活習慣病」一人あたり医療費が県平均と比較して高い傾向がある。そこで、被保険者を対象とした特定健診の受診勧奨や保健指導の推進及び受診率の向上に向けた取り組みを引き続き行っていききたい。

また、医療費通知事業や後発医薬品の使用促進・普及による医療費抑制につながる取組みを継続するなど、医療費抑制のために努力したい。

乾章俊議員



● 勝山高校の定員割れについて
● 中学校の部活動について

そのほかの質問

- ・水災害について
- ・観光振興について

一般質問

問 少子化の問題は地元勝山高校にも影響を及ぼしている。ここ数年、定員割れが続く、市民から、今後どうなるのか心配する声を多く聞く。勝山市から高等教育を受ける地元高校が将来なくなることは、とても考えられない。今後少子化は進行するが成長の源泉は人材育成にある。しっかりと対策を講じなければならぬ。実情はどうか、どのような対応をするか。

問 昨今、先生方の働き方、長時間勤務が大きな話題になっている。特に中学校では、長時間勤務の主な原因として、部活動が勤務負担増につながっていると言われる。先生方が部活動に時間をとられるあまり、学力向上のための準備や指導の時間が少なくなったり、おろそかになってはいけません。実態はどうか。

答 勝山高校の入学人数は、昨年は1名、今年12名の定員割れとなった。中学校3年生の人数が29名も減少したことが大きな原因と考えられる。勝山高校には、少人数コースできめ細かな学習指導を受けられるという優れた教育体制があり、特色ある部活動も充実し、通学に要する時間も短く、様々な利点もある。

答 今年4月の勤務状況調査の結果、超過勤務の主な理由の一つが部活動であり、熱心な指導が行われている一方で教員の負担となっている現状がある。部活動による負担を軽減していくことは極めて重要であると考え。ただ、生徒が部活動によって成長していく側面もあり、その点との兼ね合いも十分に考慮していく必要がある。

勝山高校は、勝山市にある唯一の高等学校であり、関係者が連携しながら最善の努力をしたい。

今後、よりよい形で部活動が実施できるよう、学校とも相談しながら対応していきたい。